

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL.03(3404)7661
E-mail address yo\_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

国民主権を守る平和憲法
今こそ学び守ろう

憲法と民医連綱領に基づいて活動中

自民党・安倍晋三総理大臣が憲法9条の改正を進めようとしています。これに対し、代々木病院と代々木健康友の会と代々木病院労組が主催し、代々木総合法律事務所、三浦佑哉弁護士を講師に迎えて、日本国憲法の学習会を開催しました。

「紙芝居」で説明 わかりやすかった

最初に「紙芝居」のよも正しくないとした上うな絵のスライドを上映。説明をしながら三浦弁護士は、「偉い人たちが憲法を守るかどうか私たちが見守っていかねければならない」「もし憲法を破ってしまったら、(憲法を)守らせるために私たちが声を上げなければならぬ」とうたったえましました。



人権侵害という過ちを再び繰り返さないために、憲法が制定されました

人権守り、権力の暴走を抑制するが憲法

また、国家権力について三浦弁護士は、憲法と法律は対象となる者が異なることを指摘。「法律が国民を縛る。憲法は人権保障と権力抑制という目的を持っている」とのべました。「戦前は治安維持法で多くの人が捕まっていた」と話した。戦前の過ちを繰り返さないために、政権が

変わったことで「人権を侵害しないよう国家権力を縛りつけておくことが憲法に入れられた」としました。そして三浦弁護士は、憲法は法律とは全く違うもので、対象となるものは「国民」ではなく「国家」であることを強調しました。

改憲されれば、米国の戦争の片棒を担がされる

三浦弁護士は、「アメリカ力が日本に戦争の片棒を担がせるため、自衛隊を拡大させて『軍隊』にしろという声が強くなっている」として、そのために、「政府・自民党が憲法9条を変えようとしている」とうたったえましました。また、自民党が憲法改正草案の中の「自衛権」について、「集団的自衛権」も含むとしていることをのべ、これにより日本はどこにでも戦争に行く国になり、逆に他国から攻撃されかねないことを危惧しました。

国益と治安維持のため、人権を制限できる自民党案

人権の制限について、現在の憲法12条では人権同士がぶつかってしまう

「病院にかかるお金が必要なので、(来院する日)を減らしたい」「毎日のむ薬を一日おきにのんでいる」。経済的に苦しむため医療費を減らさざるを得なくなり、生命の危機に直面している人たちがいます。憲法25条では生存権を規定しています。しかし政府は70、74歳の医療費の窓口負担と介護保険制度の利用料の2割への引き上げ、生活保護費670億円削減などを行うおうとして国民の生命を脅かしています。

安心して住み続けられるまちづくりめざして

代々木病院はこの綱領に基づき、代々木健康友の会とともに、このばん体操、熱中症対策、青空健康チェックを実施中です。

とくに熱中症の問題は、「命」に直結しています。今年も各職場から職員が訪問活動に参加し注意を呼びかけています。

一方で、毎年開催される原水爆禁止世界大会に代表を送り核兵器のない世界の実現を求めています。また、毎月、千駄ヶ谷駅頭では「6・9行動」を行い、核の廃止をうたったえています。また、被爆者健康診を通じて被爆者の健康を守っています。民医連綱領では「人間の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります」とあります。

今後代々木病院は様々な取り組みを通じて患者さんの命を守り、平和のために取り組んでいきたいと思えます。



会場は満席に。関心の高さがうかがえます

千駄の萱

早いもので、2013年も半分が過ぎてしまった。例年より早い真夏日が続いている。そしてあの夏から68年。原水禁世界大会に向けて、今年もフレッシュな顔ぶれの代表者たちが様々な形で被爆や核、まつわる命、人権について考えている。私が参加した年もうだるような暑さと青空であり、68年前の人々は一瞬にして崩れ去った日常に何を思ったのだろうか。今年も各職場から職員が訪問活動に参加し注意を呼びかけています。

唯一の被爆国でありながらも、原子力を平和利用という名のもとで使い続けた国になるなんて、決して望まない未来であつただろう。そして起こった東日本大震災と福島第一原発事故。この日を境に国民の考え方が大きく変わり、私が参加した原水禁世界大会の時よりも気運が高まっているように思える。同じ世代の若者がインターネットで自らの考えを発言したり、行動を起こすことやテレビ番組などでもあたりまえのように語られることが多くなったと感じるためだ。今回の代表者たちがどんな学びを得て帰ってくるのか、今から楽しみにしている。(ゆ)